

人と動物と環境はつながっている

# ワンヘルス

## One Health

「ワンヘルス (One Health)」とは

人の健康、動物の健康、環境の保全を一つとして捉え、

医師や獣医師、環境の専門家や研究者だけでなく、

みんなで考えて行動しようという社会活動です。

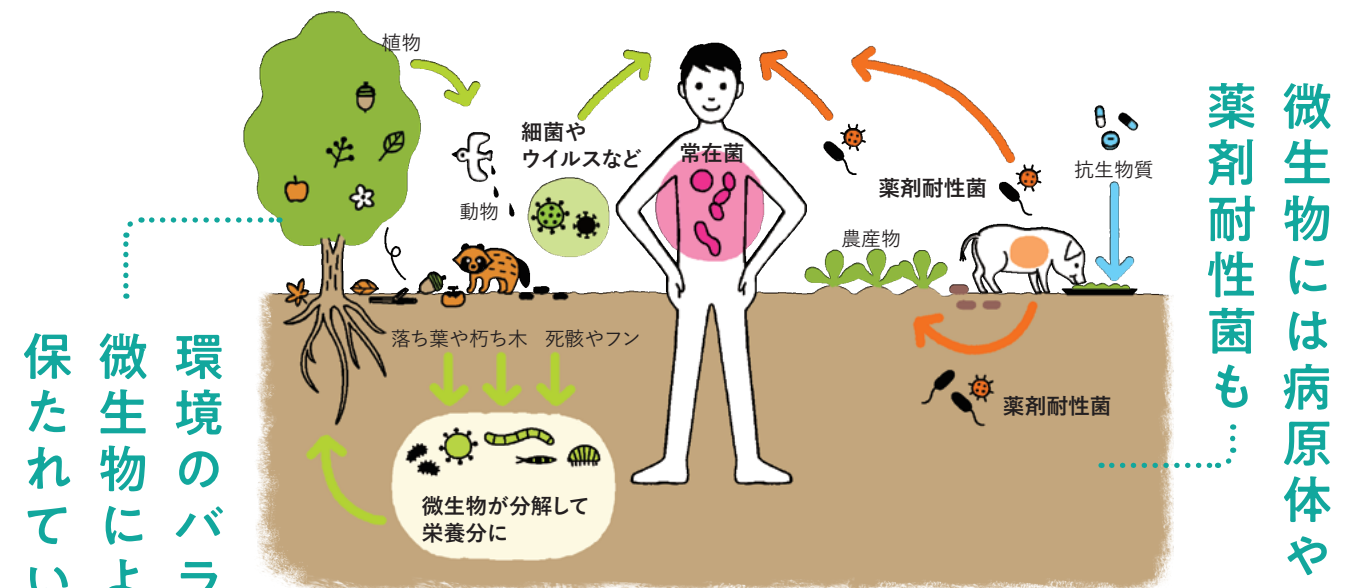
ワンヘルスの目的は、私たちが住んでいる地球の環境をまもること、

そして健全な地球で、人も動物も健康に生きることです。



福岡県教育委員会  
監修 公益社団法人 福岡県獣医師会

## 人も動物も環境も 微生物と一緒に生きています



環境のバランスは  
微生物によって  
保たれています

微生物には病原体や  
薬剤耐性菌も……

細菌、菌類、ウイルスなどの微生物は地球のあらゆる所に存在します。微生物は動物の死骸やフン、枯れ葉などを細かく分解します。そして、その分解物が土に還って動植物の栄養分になります。地球の環境は、微生物が動植物のいのちの循環を巡ることでバランスが保たれています。

私たち人の体には約100兆個の微生物が常在しているといわれています。常在する微生物は、体内に入ってきた病原体（細菌、ウイルス、寄生虫など）に抵抗して発症を防ぐなどの働きをします。

また腸内環境を整える微生物として知られる善玉菌（乳酸菌、ビフィズス菌など）は、下痢や腹痛を起こすような悪玉菌の増加を抑えます。

さらに微生物は汚染された土壌や水などの浄化、生ごみの分解など環境のためにも役立っています。

このように微生物は私たちにとって欠かせない存在です。

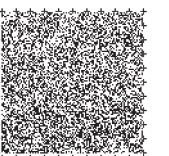
一方で、人や動物の健康を妨げる微生物もいます。細菌などの病原体は人や動物の体内に入ると感染症を起こす恐れがあります。細菌による感染症の治療には抗生物質などの抗菌薬が使われますが、薬の不適切な使用によって薬剤耐性菌が生き残ることがあり、薬剤耐性菌が大きな問題になりつつあります。

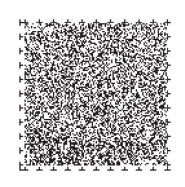
抗菌薬は家畜の病気の治療や予防、そして家畜の成長促進のために、畜産や水産でも使われています。家畜の飼料に混ぜることもあります。

不適切な抗菌薬の使用により生じた薬剤耐性菌は、畜水産業で働く人への感染や、畜産物や水産物を通じて人に拡散する恐れもあります。

このようなことから、農家や獣医師をはじめ、多くの関係者により薬剤耐性菌を増やさないようにさまざまな取り組みが進められています。

薬剤耐性菌に汚染されていない安全で安心な食品を生産、流通、販売、消費することが大切です。





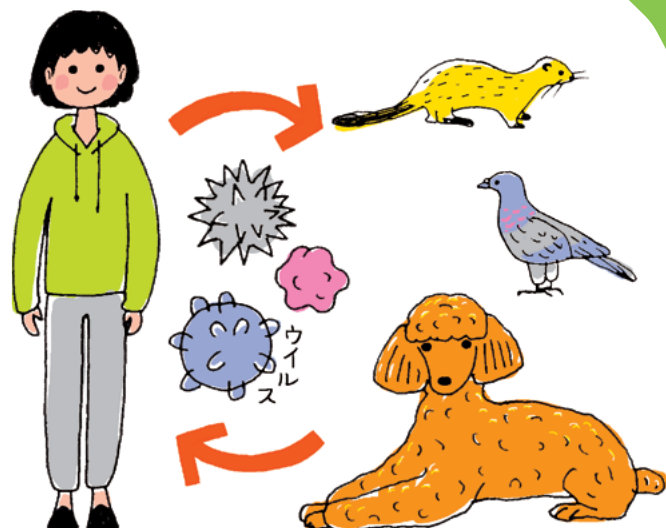
# 1

## 人と動物の 共通感染症対策

人に感染する病原体はいま1,400種以上あるといわれています。病原体とは病気を引き起こすウイルスや細菌のことです。病原体を保有する動物から人へ、また人から動物へうつる病気を「人と動物の共通感染症」といいます。その中には新型コロナウイルス感染症をはじめ、新型インフルエンザ、牛海綿状脳症（BSE）、鳥インフルエンザ、エボラ出血熱など国内外で大きな社会問題となった病気がたくさんあります。

これらの感染を防ぐには、①感染源：病原体を保有している動物や物 ②感受性者：感染の恐れがある人 ③感染経路：飛沫や接触など感染源から感受性者に至る経路の3つへのそれぞれの対策が必要です。これらの対策により、病原体による人や動物への感染を防ぐことが大切です。

具体的には国は、国外に持ち出したり、国外で購入したりした動物の届け出、感染症を診断した医師および獣医師の保健所への届け出などを義務付けています。



# 2

## 薬剤耐性菌対策 薬剤の適正使用 と管理

「薬剤耐性菌」とは抗菌薬（抗生物質）がなくなつた細菌のことです。抗菌薬を過剰に使用すると、人の体内にいる複数の細菌のうち、性菌が生き残ります。抗菌薬を過剰に使用しては結核やマラリアがあります。現在、などの治療はとても困難になっています。の一途をたどり、国境を越えて拡散している薬剤使用に関して早急に世界的な協力を

そこで、世界保健機関（WHO）は2015年10月の総会（第72回）で、薬剤耐性菌の発生を遅らせ、拡大を防ぐための「グローバル・アクション・プラン」を策定するよう各国に呼びかけました。このプランには、①教育 ②動向調査・監視 ③感染予防・管理 ④創薬 ⑥国際協力の6つの項目を掲げて取

「ワンヘルス」に関するさまざまな課題への取り組みとして6つのポイントがあります。人も動物も環境も微生物と一緒に生きていて、それぞれがつながっていることを認識した上で「ワンヘルス」の課題や目標に対して、私たちにできることを考えてみてください。

# 「ワンヘルス」

「ワンヘルス」については、地理歴史、公民、理科、保健体育科、家庭科、

# 4

## 人と動物との 共生社会づくり

少子高齢社会の中で、犬や猫、鳥、金魚などの愛玩動物（ペット）は家族の一員として迎えられるケースが増え、伴侶として重要な位置を占めるようになりました。愛玩動物は、現代の高齢者にとっては共に老いていく仲間であり、子どもにとっては社会性を育むトレーナーでもあります。

人は愛玩動物の健康を守る立場にありますが、逆に愛玩動物は人の健康づくりや生活の質（QOL）の向上に貢献しています。愛玩動物といると笑顔や会話が增える、心が安まるなどの癒やし効果があるといわれており、また犬や猫をなでることでストレスが軽減され、心拍数や血圧が安定するといったデータもあります。このようなことから、愛玩動物は医療や福祉、教育などさまざまな分野で活躍しています。

一方で、犬や猫への虐待、過剰飼育・繁殖による遺棄や殺処分といった問題も起こっています。

愛玩動物との関係をより良く保つためには、愛玩動物の重要性を理解し、飼育法を熟知することが求められます。特に犬を飼育する場合は犬の登録と年に1回の狂犬病ワクチン接種が義務付けられています。このほか愛玩動物にはノミやマダニなどの病原体が寄生する場合がありますので、定期的な駆除や健康診断など衛生管理も大切です。



# 5

## 健康づくり

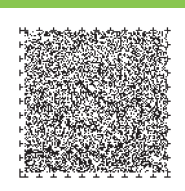
健康は万人の願いです。WHO憲章によると「健康とは単に病気がないということではなく、肉体的にも、精神的にも、社会的にもすべてが満たされた状態にあることをいっています。

私たちは、年に1回以上の健康診断を受け、することが大切です。

しかし、すべての健康診断データが正常域にない場合があります。すぐに治療が必要な病気が見つかるケースも、病気になる前に生活習慣を改善し発症前に

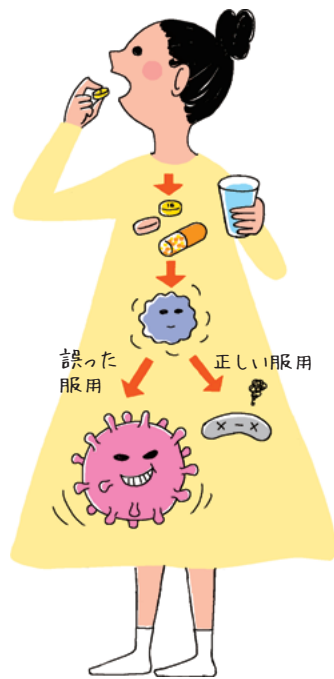
また、健康診断データに異常があり、何らかの病気を患っている家族や隣人、仲間、愛玩動物に囲まれ、それによって醸成された健康感「健康診断データに異常があり、何らかの病気を患っている家族や隣人、仲間、愛玩動物に囲まれ、それによって醸成された健康感

これからの健康づくりは、家族や愛玩動物、仲間、愛玩動物に囲まれ、それによって醸成された健康感「健康診断データに異常があり、何らかの病気を患っている家族や隣人、仲間、愛玩動物に囲まれ、それによって醸成された健康感



ど)が効きにくくなる、あるいは効過剰に、また不適切に使い続けてい抗菌薬が効く菌は消滅し、薬剤耐用して問題となった代表的な病気と薬剤耐性菌や薬剤耐性性マラリアさらに薬剤耐性菌は世界的に増加します。このような現状から、適正が必要な段階といえます。

年のWHO総会で薬剤耐性菌対策に「ワン・ヘルス」(日本WHO協会訳)と定義を採択し、加盟国には自に要請しました。日本でも2016年訪ぐことを目的に、①普及啓発・教抗微生物剤の適正使用 ⑤研究開発・り組んでいます。



### 3 環境保護

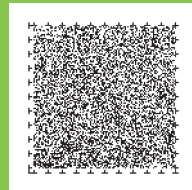
近年のグローバル化や大量の食糧生産は、人や動物にとって貴重な森林や生態系を破壊し、気候変動の一因となっています。

その一つ、地球の温暖化は熱中症のリスクを高めるだけでなく、豪雨や台風、山火事といったさまざまな災害の原因となり、人だけでなく動植物にも大きな災いをもたらします。

また大規模な森林伐採や急速な開発による都市化はそれまでジャングルの奥地に生息していたウイルスなどの病原体と人が遭遇する機会となり、新しい感染症が発生する恐れがあります。重要なのは「ジャングルの奥地で密かに生息している微生物と人が接してはいけない」ということです。

このように環境と人と動物の健康は密接につながっています。

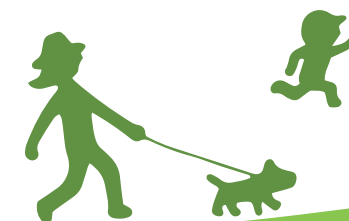
自然環境は、人も含めて多様な生物が生きる場です。良い環境と生物のすみ分けが保たれていてこそ、人や動物の健康が維持されます。健康にとって大切な環境を次の世代に引き継ぐことも忘れてはならないことです。



## につながる6つのポイント



総合的な探究の時間、ホームルーム活動などのさまざまな学習内容と関連して学ぶことができます。



健康とは、病気でないとか、弱くなく、精神的にも、そして社会的にも、「健康」(日本WHO協会訳)と定義

データによる健康状態を知る

ある人は少数ではないでしょう。健康診断によ

防ぐこともできます。

の病気を患っていても、より

れぞれに自分の役割を務め、

れる「病気があっても、毎日

覚が大切だといわれています。

環境とのつながりを大事にし

いるのではなく、健全な環境

きているのです。

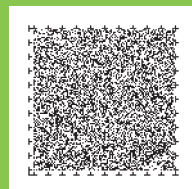


### 6 環境と人と動物の より良き 関係づくり

環境と人と動物の間には、さまざまな微生物が行き来しています。人や動物に病気をもたらす微生物がいる一方で、人や動物の体に有益な微生物もいます。乳酸菌やビフィズス菌、麹菌などを含む「善玉菌」とよばれる有益な微生物は、悪玉菌が増えるのを抑え、腸内環境を整える働きがあります。この善玉菌なしには人も動物も健康に生きていけません。そして善玉菌は、「食」によって人の体内に入ってきます。

「食」を生産する環境を有害な物質に汚染されないことは言うまでもありません。例えば米や野菜などの農産物を作るためには、農地(大地)、太陽、水が必要です。また肉や卵、牛乳などの畜産物は、動物(家畜)の「いのち」から生まれています。家畜伝染病を予防し、安全な飼料を与えて家畜の健康を保つことは、人の健康にもつながっています。

農畜水産物の生産には多くの人に関わっています。「安全・安心」な食づくりには、農畜水産物の生産状況が直接確認できる地元で生産することと、これを支えるさまざまな生業や職業を持続させることが大事です。そして「何を食べるのか」「何を食べてはいけないのか」を学ぶ「食育」の推進も不可欠です。



# 環境が破壊されると

## 人と動物の健康被害につながります

地球温暖化は災害発生から人や動物の体にも影響します



森林破壊は新たな感染症の発生にも

世界規模では、地球温暖化により、北極や南極の氷河が溶け海面が上昇したり、雨が降らずに農作物がとれなくなったりといった現象が起っています。

近年の日本でも最高気温が35度以上になる猛暑日が増加し、強大化した台風や集中豪雨などの災害が発生しています。

地球温暖化は人や動物の健康面でも大きな影響を与えます。気温が上がることで、熱中症をはじめ消化器系の病気にかかったりします。さらに気温上昇に加え雨量が増えることにより、感染症の媒介となる蚊の発生やネズミなどの数が増えることにもつながります。また動植物の絶滅や分布の変化なども起っています。

南米やアフリカ、東南アジアを中心に世界の森林面積が減少しています。人が森林を開拓する理由としては、農地や牧場として利用したり、違法に伐採した木材を販売したりするケースなどが挙げられます。しかし森林を開拓＝破壊することは、地球温暖化を加速させることにつながり、災害も発生しています。

また多様な植物や野生動物が生きている森林の奥地には、密かに生息する微生物もいます。森林破壊は、森林の奥地に生息する微生物と人が遭遇する機会が増え、新たな感染症が発生する恐れにもつながります。

行き過ぎた森林伐採を見直すなど地球環境をまもることは、私たちの健康にもつながります。

## 高校生のみなさんへ



現在、地球上では、人による生態系に影響を及ぼす行為が繰り返され、さまざまな環境問題や感染症の問題が発生しています。このため、私たち一人一人が、人と動物と自然環境の共生社会づくりを、地球規模で考え、地域で行動していくことが、これまで以上に求められる時代になってきました。

そのような中、私たちが住む福岡県では、世界に先駆け、人と動物の共通感染症対策をはじめとするワンヘルスに、県民が一緒になって取り組むため、「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定しました。この条例を通して、私たちにとって大切な地球を次の世代に引き継ぐために、今から始められる「ワンヘルス」を共に考え、実践していきましょう。

2021年4月

### 福岡県ワンヘルス推進基本条例

[基本理念]

第三条 人と動物及びこれを取り巻く環境は、生態系の中で相互に関連し、影響し合う一体のものであることから、何人も、これらをワンヘルスとして守り、次世代につなげることを旨として行動するものとする。  
2 前項の基本理念にのっとり行動するに当たっては、何人に対しても、その健康状態に関する気持ち又は価値観を尊重し、自主的な取組を支援することを旨とするものとする。

### 「ワンヘルス」と「SDGs」

2015年に国連サミットで採択され、加盟国が2030年までに達成するために掲げた「SDGs (エス・ディー・ジーズ) = Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」には、「ワンヘルス」の課題や目標と重なるところがあります。

この課題や目標を達成するために、自分にもできることを考え、行動してみてください。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



外務省「SDGs」ホームページ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>



### 「ワンヘルス」に関する情報は

福岡県「ワンヘルス」ホームページ  
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/life/3/21/390/>



One Health